

屋島小学校だより No.35 (2007.5.1)

E-mail e-yasima@edu-tens.net TEL 841-1538 FAX 841-1539
URL http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimaHP/

“子どもの特性を踏まえた教育” 学びの時間確保

最近、子どもの学力低下が叫ばれ、様々な議論が繰り返されています。ゆとり教育がゆるみ教育になったとか、子どもに目標や夢がなくなったなど、その原因を指摘する声も多く聞かれます。しかし、どれも一つの観点や窓口からみた評価のような気がします。時代が変わり、生活様式が大きく変貌するなかで、要求される学力も変わっています。したがって、読み・書き・計算のような観点だけで比較することもできません。

ところが、昔と今を比べて変化がないのは“子どもの成長・発達”の特徴です。これを指導の基本にすることが大切であり、また、これを無視した教育には効果を期待することはできません。その例をひとつ取り上げて考えてみましょう。

その1 時間 同じことを何回も学ぶことで理解ができ、技能が向上し、知識の定着がある。
(大人にとっての1年は、子どもには長～い1年である)

子どもには時間が必要なのです。睡眠時間もしかり、学習もしかりです。内容を何度も繰り返すことで腑に落ちる(わかる)ことになるのです。それには、学習に参加(出席)することが最低の条件です。

右のグラフは年間授業日数です。

20年前には240日ほどあった登校日も、最近では200日ほどに減少しています。保護者の方が小学生だった頃は、学習にも時間をかけ、じっくりと学んでいたこととなります。ところが、変化はそれだけではありません。

少なくなった授業日数に加えて、欠席も多いのです。昨年はやや減少したものの、毎日平均8人が欠席している現状です。1週間に換算すると1学級40人全員が休んだこととなります。時間を必要とする子どもにとって、授業を欠席ことは大きな損失です。普段から体調管理をしっかりとって、学校を休まないことで、学習が進むのです。

なお、この統計には出席停止(インフルエンザなど)の数が含まれていません。それらを加えると、もっと多くの子どもが授業に参加していないこととなります。これでは学力低下が心配になるのも当然かも知れません。

少ない授業日数を十分に活用するには、普段から体調を整え、風邪などの病気にかからない体力をつけることです。当たり前のことですが

“十分に睡眠(9~10時間)をとる。そして早寝・早起き・朝ご飯、それが**基本**です”

